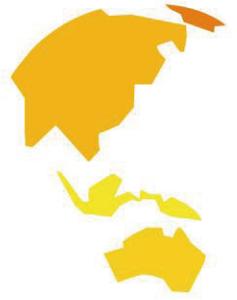




CAGLIERO 11

カリエロ



176 2023年 8月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



兄弟姉妹の皆さん、

日々の生活のなかで神との一致を生きることができるのは、何という喜びでしょう！ 復活されたキリストが、私たちのうちに、私たちを通して働かれるよう心を開きながら、そうして、ドン・ボスコの精神のうちに、サレジオのスタイルで、私たちの洗礼の奉獻を成長させることは、何という喜びでしょう！ これが「ナザレのマリア観想信心会」の召し出し、私たちの創立者、ニコラス・コトゥーニョ大司教(SDB)がいただいた、カリスマの直観です。

そして、生き方のさまざまな身分においてこれを生きることができるのは、何という喜びでしょう：夫婦、家族、子ども、思春期の若者、奉獻された女性たち、司祭、そして私たちの優先的な奉仕の対象である若者として。そして、大きなサレジオ家族との交わりのうちにそれができるのは、何とすばらしいことでしょう。

聖霊がこれからも、教会における私たちの旅を勇気づけてくださいますように！

Silvia Ortolan-Cabale

■ ナザレのマリア観想信心会
代表 シルヴィア・オウルテ=カバレ

お金と宣教師



ふだんの毎日の生活で、お金はなくてはならないものです。あらゆる人間的取り組みがそうであるように、宣教活動には財源が必要です。お金には価値があり、その価値によって、キリストをまだ知らない人々に福音を宣べ伝えるための重要な資源になります。都会や、キリスト教の長い伝統を持つ国々においてさえ、そうです。お金は、**車の車輪のようなもの**です。お金がなければ、福音宣教の事業は、前進、発展できません。組織を作り、計画を運営するにはお金が必要です。宣教師は、辺縁の場へ赴き、新たな前線を開くために、自分たちを支え、新たな取り組みを始める財源が必要です。

支援者は、私たちの宣教事業の意義を信じ、支援してくれます。時に、支援者や寄付を寄せてくれる人々は、実際の福音宣教の必要や宣教地の状況による必要よりも、関心のある事業に支援したがりです。また、宣教師が、上からの支援に依存させるようなやり方をすると、地元の人々は、自分たちの必要のために積極的に働くよりも、**受け身になり配給されるものを待つ**ようになってしまいます。同様に、宣教師たちが尊敬される主な理由が、彼らから物的利益を得られるということであるとき、宣教師たちと、福音をもたらすために遣わされた人々との間に、社会的な溝ができてしまいます。

宣教師が、地元の人々の目には裕福な人々に映ることがあります。なぜなら、自分たちの計画のため、車の購入のための資金を調達でき、地元の人々が夢見ることもできない快適な生活を送っているからです。このことは、宣教師に対するゆがんだイメージにつながり、福音を宣べ伝えることは難しくなります。したがって、宣教活動で最も重要な挑戦を投げかける問題の一つは、**お金の扱い方**です。なぜなら、お金のまつわる問題は、イエス・キリストを告げ知らせることを、促進することも、阻害することもあるからです。

進むべき道は、宣教事業に関わるすべての人：支援者、寄付を寄せる人、宣教師、地元の人々の間で、**良い管理運営を促進**することです。良い管理運営は、説明責任や透明性について認められている基準を維持すること、監査人や会計士、経理担当者がお金の使途を確認できるように、行政による財政規則にのっとり、書面で記録を残し、倫理的、道徳的な潔白を保つことを意味します。

ドン・ボスコ自身、支援者から多くの献金を受けました。しかし、彼の生活は、質素、骨身惜しまない働き、そして**他者への寛大な奉仕**に満ちたものでした。ドン・ボスコは、良い管理運営の感性を持つよう求めました：「よく覚えておきなさい、私たちが手にしているものは、私たちのものではありません、貧しい人たちのものです。それを良く用いないなら、私たちには災いです。」(MB V, 450) 確かにお金は大切ですが、お金がすべてではありません。お金は、福音をより効果的に宣べ伝えるために、道徳的、倫理的に用いるべき資源なのです。

■ 宣教顧問 アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB



WYDの準備をするリスボンの若者たち

振り返りと 分かち合いのために

- 私はお金を、人や物事をコントロールするために使っていないだろうか？
- 自分の安心の土台は？ 神、それともお金？

ワールドユースデー (WYD) の準備： 宣教の体験

シルヴィオ、私たちは教皇フランシスコと共に、今月、WYD リスボン大会に参加するすべての若者のために祈っています。あなたは大会の準備にたずさわり、今は、その実施運営のため、たくさんの仕事を引き受けていますね。あなたの役割は、具体的にどのようなものですか？

こちらの管区のすべてのサレジオ会員は、WYD 2023の準備に関わるよう呼びかけられました。支部レベルでは、支部のサレジオの活動に若者を受け入れる準備チームに、私は入っています。WYDとは何なのか、その実現のためにどのように貢献できるかを、信徒・ライチ協働者、学校の保護者、サレジオの小教区の人たちに知らせます。私はこの一年を通して、WYDに参加する私たちの若者のグループを活気づけてきました。そして私は、8月2日に頂点を迎える、サレジオ青年運動SYMの夕の祈りを準備するチームの一員です。夕の祈りには、7千人近くの若者が参加し、アンヘル総長とサレジアン・シスターズ総長も参列します。

この大きな行事に、サレジオのスタイルが果たせる最も大きな貢献は何だと思いますか？

まず、WYD 2023の保護者の一人、ドン・ボスコの聖性をあかしすること。実に多くのポルトガルの若者が、ドン・ボスコをよりよく知る機会を得ました。次に、サレジオ会は、教皇フランシスコの歓迎式典に協力するよう呼びかけられました。そのため私たちは、教皇と世界中からの若者の最初の親しい出会いの場で、とても積極的な役割を果たすことになりました。最後になりますが、サレジオ家族とサレジオ青年運動は、召命フェアで重要な存在となるでしょう。サレジオのミッションと霊性を紹介するブースが設けられます。また、サレジオ家族は、ドン・ボスコについてのミュージカルを含むさまざまな取り組みをたずさえて、ユースフェスティバルにも参加します。

WYDの準備が、神父様の管区の宣教の意識や活気づけに影響を与えたと思いますか？

WYDは、世界最大の若者のイベントです。それだけでも、すでに影響があります。信仰と若者のこの大いなる出会いの準備のため、若者たちは献身的に取り組んでいます。それによって、教会とカリスマへの帰属意識が目覚め、出かけて行ってほかの若者たちと出会うための、より豊かな創意が目覚めています。若者たちは最も遠いところにいる人々に目を向けています、教皇フランシスコの発した招きから、誰も取り残されることがないように。WYD 2023の準備は、真の宣教体験になったと言えます。



シルヴィオ・ファリア神父, SDB

私はポルトガル人で、十代のころからサレジオ青年運動MGS/SYMに参加していました。スペインで哲学を、ローマの教皇庁立サレジオ大学で神学を学びました。2008年に司祭に叙階されました。サレジオ会員としては、私たちの学校、高校・高等教育機関、ユースセンター、サレジオ・スカウト運動で**司牧アニメーター**を務めました。現在は、**マニケ**のサレジオ会事業の一員です。私は様々な場所のサレジオのグループに同伴することでサレジオ精神を生きています。というのも、私はポルトガルーカーポベルデ管区の**宣教促進担当**であり、昨年からは地中海地域の**宣教促進地域コーディネーター**も引き受けているからです。



ワールドユースデー (WYD)

WYDの大会は、**教皇ヨハネ・パウロ二世の直観をとおして1985年に始まり**ました(ローマ大会)。

しかし、ヨハネ・パウロ二世は、自分がWYDの創始者であるとは決して考えませんでした；かえって、このように言いました：「若者たちが始めたのです」。

1987年	アルゼンチン、ブエノスアイレス	1997年	フランス、パリ	2011年	スペイン、マドリード
1989年	スペイン、サンチアゴ・デ・コンポステラ	2000年	イタリア、ローマ	2013年	ブラジル、リオデジャネイロ
1991年	ポーランド、チェストホーヴァ	2002年	カナダ、トロント	2016年	ポーランド、クラクフ
1993年	米国、デンバー	2005年	ドイツ、ケルン	2019年	パナマ、パナマ市
1995年	フィリピン、マニラ	2008年	オーストラリア、シドニー	2023年	ポルトガル、リスボン



8月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

ワールドユースデーのために

WYDに参加するサレジオのすべての若者のために。

ワールドユースデーリスボン大会が、それぞれの生活において福音を生き、あかしするよう、若者たちを助けるものとなりますように、祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

WYDの若者たちの
ために

